



LIBRARY

いわき総合高校図書委員会 平成31年3月号



詩のオススメ😊

『便所掃除』 濱口國雄

扉をあけます 頭のしんまでくさくなります まともに見ることが出来ません
神経までしびれる悲しいよごしかたです 澄んだ夜明けの空気もくさくします
掃除がいったんにいやになります むかつくようなババ糞がかけてあります

どうして落ち着いてしてくれないのでしょうか けつの穴でも曲がっているのでしょうか
それともよっぽどあわてたのでしょうか おこったところで美しくなりません
美しくするのが僕らの務めです 美しい世の中もこんな処から出発するのでしょうか

くちびるを噛みしめ戸のさんに足をかけます 静かに水を流します
ババ糞におそろおそろ箒をあてます ポトンポトン便壺に落ちます
ガス弾が鼻の頭で破裂したほど苦しい空気が発散します
落とすたびに糞がはね上がって弱ります

かわいた糞はなかなかとれません たわしに砂をつけます 手を突き入れて磨きます
汚水が顔にかかります くちびるにもつきます そんな事にかまっていられません
ゴリゴリ美しくするのが目的です その手でエロ文ぬりつけた糞も落とします
大きな性器も落とします

朝風が壺から顔をなぜ上げます 心も糞になれて来ます 水を流します
心にしみた臭みを流すほど流します 雑巾でふきます
キンカクシのうらまで丁寧にふきます 社会悪をふきとる思いで力いっぱいふきます

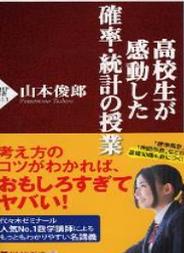
もう一度水をかけます 雑巾で仕上げをいたします
クレゾール液をまきます 白い乳液から新鮮な一瞬が流れます
静かなうれしい気持ちですわってみます 朝の光が便器に反射します
クレゾール液が糞壺の中から七色の光で照らします

便所を美しくする娘は 美しい子供をうむといった母を思い出します
僕は男です 美しい妻に会えるかも知れません

<作者について>

濱口國雄さん(1920~1976)は、国鉄(現JR)で働きながら詩を書いた方です。戦争体験をきっかけに詩を書き始めたそうです。『便所掃除』は濱口さんの代表作です。

図書委員オススメ総集編

発行月	タイトル・著者		図書委員から一言
5月号	吸血鬼伝説	⇒ジャン マリニー 中村 健一 訳	 <p>私自身、吸血鬼等のオカルト物が非常に好きなのだが、吸血鬼に対する認識は少しばかり浅かった。しかし、この本はそんな私を変えてくれた。当時の絵画や文章が載っており、当時の様子を伺い知る事が出来る。今となっては映画や小説のネタとして多く使われてきた「吸血鬼」という概念。この本を読み、今一度自分の持ち合わせた知識と照らし合わせてみてはどうだろうか。きっと新しい発見が出来るであろう。(TS)</p>
6月号	夜市	⇒恒川 光太郎	 <p>日本ホラー大賞受賞作ですが、怖さはそんなになくファンタジー要素のあるお話です。映像が自然と頭の中に浮かびやすく素直に世界観を楽しむことができるお話だと思います。また、奇妙な世界に入り込んだような恐ろしさとワクワク感も味わえるので熱くなる季節にぴったりだと思います。この本の中には夜市の他にも「風の古道」というお話も入っています。異世界の様子がとてもきれいに書かれていておもしろいです。一気に読みができるほどの文章の量なので読みやすいと思います。ぜひ、読んでみてください!! (SK)</p>
7・8月号	アナログ	⇒ビートたけし	 <p>映画監督としてビートたけしさんを知っている人は多いと思います。そんなビートたけしさんが本を書いていたことは知っていましたか？ たけしさんのこれまでの小説は、本人も言っていますが、大まかなストーリーは自分で考え、あとはゴーストライターに任せたものなのです。しかし、この『アナログ』はゴーストライターの手を借りずに書いたオリジナル小説になっています。SNSやインターネットが普及する、今を生きるみなさんにぜひ読んで欲しい一冊になっています。(SK)</p>
9月号	いつか すべてが君の力になる	⇒梶 裕貴	 <p>アニメ『進撃の巨人』エレン・イェーガー役や『七つの大罪』メリオダス役を担当するなど、有名な声優となった梶裕貴さんが初めて書いた本です。どうして「声優」になったのか？ 夢を追い続ける中で、困難をどう乗り越えたか？ 夢を仕事にする方法が書かれています。皆さんもそれぞれ違った夢を持っていますよね？ これから先辛いことや悲しいことも多いかもしれませんが、でも、それを乗り越えた先に明るい未来が待っていることを証明した本です！ アニメ好きはもちろん、将来の夢に不安を持っている人も勇気づけられる本です！ ぜひ読んでみてください!! (TH)</p>
10月号	天使の卵～エンジェルス・エッグ	⇒村上 由佳	 <p>『天使の卵～エンジェルス・エッグ～』は、18歳の美術予備校生の主人公が春の満員電車で出会った女性に心惹かれ、そして運命が悪戯に交差し二人を翻弄していく……。運命的な出会いと偶然の再会や、主人公を取り巻く環境などを通して心情表現や緻密な思考が良いところだと思います。続編が3冊あるので、そちらもぜひ読んでみてください。(TS)</p>
11月号	貴族と奴隷	⇒山田 悠介	 <p>人間1人がいかに正義を語ろうとも、どんなに個としてよき人物であろうと努力しても、リアルな世界は残酷だということを余すことなく表現している本です。物語に登場する人物たちの行動や心理描写は、とてもリアルで監獄実験という日常ではあり得ないような世界を実際に体験しているかのようです。とても面白い本なのでぜひ1度読んでみてください!! (MA)</p>
12月号	高校生が感動した確率・統計の授業	⇒山本 俊郎	 <p>確率は、得意な人と不得意な人の差が激しい分野です。確率の考え方がよく分からないまま終わってしまった2・3年生や、1年生には特におすすめです。統計は、大人になっても使う機会が多い分野ですが、学校の授業ではあまり詳しく学んでいないと思います。意外に奥が深く、楽しい分野です。この本の内容は、主に高校生向きですが、大人でも十分楽しめると思います。(RS)</p>